

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり

時事新報には毎號詳細なる商況物價の報告あり

時事新報

第三千三百二十二號
明治三十五年四月九日 土曜日
舊曆壬辰三月十三日 辛未
創刊日 明治十五年四月九日
創刊時 午前六時三十分
印刷日 三月十三日
印刷時 午前四時三十分
印刷所 東京市本町三丁目
電話 午前三時三十分
（西曆一千八百九十二年）

時事新報定價
 時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細の商況物價報告あり其代價は送料廣告料は左の如し
 一頁二錢〇二月分五錢〇三月分七錢〇四月分九錢〇五月分十錢〇六月分十二錢〇七月分十三錢〇八月分十四錢〇九月分十五錢〇十月分十六錢〇十一月分十七錢〇十二月分十八錢〇一月分二十錢〇二月分二十二錢〇三月分二十四錢〇四月分二十五錢〇五月分二十六錢〇六月分二十七錢〇七月分二十八錢〇八月分二十九錢〇九月分三十錢〇十月分三十二錢〇十一月分三十三錢〇十二月分三十四錢〇一月分三十五錢〇二月分三十六錢〇三月分三十七錢〇四月分三十八錢〇五月分三十九錢〇六月分四十錢〇七月分四十二錢〇八月分四十三錢〇九月分四十四錢〇十月分四十五錢〇十一月分四十六錢〇十二月分四十七錢〇一月分四十八錢〇二月分四十九錢〇三月分五十錢〇四月分五十二錢〇五月分五十三錢〇六月分五十四錢〇七月分五十五錢〇八月分五十六錢〇九月分五十七錢〇十月分五十八錢〇十一月分五十九錢〇十二月分六十錢〇一月分六十二錢〇二月分六十三錢〇三月分六十四錢〇四月分六十五錢〇五月分六十六錢〇六月分六十七錢〇七月分六十八錢〇八月分六十九錢〇九月分七十錢〇十月分七十二錢〇十一月分七十三錢〇十二月分七十四錢〇一月分七十五錢〇二月分七十六錢〇三月分七十七錢〇四月分七十八錢〇五月分七十九錢〇六月分八十錢〇七月分八十二錢〇八月分八十三錢〇九月分八十四錢〇十月分八十五錢〇十一月分八十六錢〇十二月分八十七錢〇一月分八十八錢〇二月分八十九錢〇三月分九十錢〇四月分九十二錢〇五月分九十三錢〇六月分九十四錢〇七月分九十五錢〇八月分九十六錢〇九月分九十七錢〇十月分九十八錢〇十一月分九十九錢〇十二月分一百錢〇一月分一百一十錢〇二月分一百一十二錢〇三月分一百一十三錢〇四月分一百一十四錢〇五月分一百一十五錢〇六月分一百一十六錢〇七月分一百一十七錢〇八月分一百一十八錢〇九月分一百一十九錢〇十月分一百二十錢〇十一月分一百一十二錢〇十二月分一百一十三錢〇一月分一百一十四錢〇二月分一百一十五錢〇三月分一百一十六錢〇四月分一百一十七錢〇五月分一百一十八錢〇六月分一百一十九錢〇七月分一百二十錢〇八月分一百一十二錢〇九月分一百一十三錢〇十月分一百一十四錢〇十一月分一百一十五錢〇十二月分一百一十六錢〇一月分一百一十七錢〇二月分一百一十八錢〇三月分一百一十九錢〇四月分一百二十錢

一年五圓	半年三圓	三月二圓	一月一圓
一月以上	一月以上	一月以上	一月以上
一月以上	一月以上	一月以上	一月以上

本社（寄稿）に付
 東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受け紙面を撰述するより各社同一の記事を掲げざるを以て弊からず獨り時事新報社社員並に通信員を以て斯類の社に通信を依頼せずと雖も世間此類の事を知る事と信する者方なきが如し爲めに行違ひを生じたる場合も尙からざれば本社に記事論說を寄稿せんとする方は直接に本社に向て發送あらんとを請ふ

時事新報

米商同盟の結局如何

近頃世間に米商同盟の噂頻りに聞かれ大坂屈指の米商が相結して大に買占の策を講じ期米正米の差別なく各地を買占して正米のみを以て既百萬の富に越たり今後必ず一買占め買占めて由々しき勝負を決せんとするものなり此等果して世評の如く初めより意ありて聯合を形造りたるものか或は又老商輩の見る所期せずして相一致し遂に事の及に及ぶるものか裏面の事は知る可きにあらずれども兎に角に目下の事態は正に商戦の佳境に入ると云ふ可し今事の起より今日に至りし其大略を述べんとするに昨年の米作は關東の豐作に引換へ西筋中國より九州に掛けては稍や劣作を告げたるより大坂以西の米商は一體に強氣を催はし未だ秋收の實を見ずして早く既に其見込を發表し半年より一凡そ幾割減なりとて人に吹聴すれば自身にも之を信じ腕を揃えて買立てたるが事の發端にして當時未だ聯合の體を爲したるにあらざるべしと雖も其後それが爲めに大坂市場の相場は日に昂進して其極途に昨年中の最高直段九圓十錢にまで推上げ東京市場も連れて八圓六十錢の呼聲を聞くに至りたるなど再び一年の暴騰を續せんとしたる折柄、近地の豐作を眼前に見て弱氣の念去り難き關東の米商は此期失ふべからずとてなほ大坂の強氣連に對して總掛りに賣を試みたるより昨年々々以來は東西兩方に分れての大取組を現出し東に目星しき勇將とてはなげきも疎筋の入れ代り立代りて賣米を賣かくる事なれば虚を以て實を制せんとする者は勢に於て挫折せざるを得ず遠が老練なる大坂米商も旗色稍や動さ始めたる上に東京、大坂の商直に誘はれて全國の米穀は紛々兩市場に集り倉所に在る米の多きと古來其比を以ず弱氣は是等の聲援に一入の力を得て益を賣り頻り、爾來米價は兎角引立ち兼ねて動もすれば下落の方向に傾き強氣者に取ては甚だ苦しさ狀勢とばかりた

り左れば常に全國を引受けて物の數もせざりし大坂屈指の老商も大勢には敵すべくもあらずして勢ひ聯合を形造くるの止むを得ざるに至り今日の大勢に逆て自家の商路を維持するの手段としては當に處を以て

期米を制するのみならず實際に正米を以て買占め實を以て實を制せざるべからずとて爰に初めて老商數輩の團結を計り相結して西は馬關、博多より東は桑名、東京を始め越中越後の各地を買占め徳々に品攻を試むる其一方には外國輸出米もあり麥作の氣遣ひもあり時に不思議の異變もあるべければ賣手の驚るゝを俟て益を引締め引締まり一舉に全勝を制せんとして時節の到来を俟つ其間に手を分て買入れたる石高は實に莫大の數に達し現に今日にては正米のみにて東京の在米六十餘萬俵中過半は大坂一味の持米にして大坂市場にも亦三十四五萬俵あり之に全國各地にて買付けたる分までを合すれば少くも百萬俵以上の數に及ぶ尙は定期に買付けたる玉數も少からず實に古來未曾有の大取組にして商路の得失は姑く擱き其大略は凡商の企て及ぶ所に非ず之を傍觀しても愉快なりと云ふ可し既に此境にまで深入りしたる上は尋常一様の手段を以て硬地を引上ぐ可きに非ざれば或は今日勝負して不利なることは夏秋大災の時まで持堪へて商運を下し以て死生を決するの策もある可し是れ亦望なきに非ず假令其彼等は今日に於て既に重荷に苦しむ所あるも聯合體の死力を盡すに至らば非余金融緩和の折柄、此上尙は許多の石高を買入らざるは必ずしも至難に非ず又大坂米商買占中所謂香屋と稱せらるる輩の中には弱氣の者もなきにあらずれども時合買ひの勢力を氣に構へて從來客筋の賣玉を呑み居たるふと少なからず今更ら之を場に出して賣り崩すもあらんか香屋は自殺するに異ならざれば止むを得ず強氣に同盟して遂に總掛り協議の上團結して買方に廻らざるべしと内謀を調へたりとの噂もあざ然たる一團のコンテートを組織し得たるものか如し實に近來珍らしき商戦にして經濟社會の活劇と云ふ可し若し不幸にして買占めの破るゝもあらんか米價は一時下落して堂嶋の米商は大に苦しむらざらん或は之を逆にして勝利に歸せんか米價は一時騰貴して一時農家の利益たるふとある可し其利害は兎も角もとして我輩の爰に特に注目するは我商賣社會の大第一にして連年大に面目を改めたる一事なり十數年前には一所の相場所にて僅に二三十萬俵位の米を賣買したりと云へば忽ち人の耳目を驚かしたるものが今日には實米百萬の俵數を左右し然かも全國の各市場に氣脈を通じて事を成るが如き畢竟電信郵便の利器を利用して然るものとは雖も商賣社會に資本の運動するものと舊時に倍したりと云はざるを得ず或は米の相場は虛なりとて古流の不平を鳴らす者もあらんかなれども是れは學者の偏論にして取るに足らず盧實に其盛大なるは商人の技倆を進めたるの徴候にして即ち國力の盛大を

官報

朕電話交換局官制中改正ノ件ヲ認可シ茲ニ之ヲ公布セ
 明治三十五年四月七日
 内閣總理大臣伯爵森岡正義
 逓信大臣伯爵後藤象二郎

御名 御璽
 明治三十五年四月八日
 司法大臣子爵中不二麻呂
 一冊
 東京府東京市下谷區山伏町七番地木村吉發行
 右出版物ハ風俗ヲ壞ルルモノト認ムルヲ以テ其發賣
 頒布ヲ禁止ス
 明治三十五年四月八日
 内務大臣伯爵岡田種臣

○南太平洋（Australia）
 濠洲旅行記（八）三本武重

濠洲旅行記（八）三本武重
 第五十六世紀の交、世界中最も航海の進歩したる國は西陞、葡國の兩國にして當時航海者の大膽なる實に五百年後の今日、第十九世紀の吾人をして後に望若たらしむるものあり彼の有名なるコロムブス、西班牙帝皇の贊助を得て大西洋を横過し亞米利加を發見したるは第十五世紀の末なり葡國の大膽なる航海者ウエスコノアガマが喜望峯を廻航して初めて印度及東洋諸邦と歐洲の間に貿易の端緒を開きたるも亦同世紀の末なり爾後兩國互に競って遠洋航海を獎勵し西班牙人は巴拿馬の地峽を経て陸路太平洋沿岸に達し又海路マゼラン海峡を通じて江洋たる南太平洋に船を浮ぶると同時に葡萄牙人はマレー諸島及支那海に航路を開き遂に西國は遠くフィリッピン群島を經り葡國は爪哇及近傍諸島に貿易所を敷くるに至りしが第十六世紀の末、和蘭が東印度諸島の間隙を奪へず遂に及んで西、葡兩國の冒險者を驅逐して瓜分略し近傍諸島を占領したり此際此當り是等の敢爲勇猛なる航海者が濠洲の沿岸を巡航したるは事實に相違なしと雖も此